

# 宮前町防災ハザードマップ

～身近に潜む危険を知ろう～  
「地域の目で見た危険箇所」

～過去の水害から学ぶ～  
「昭和28年水害と昭和35年水害の記録」

府道の決潰

宮前町宮川



昭和35年8月30日 台風16号の被害状況写真  
(府道宮前千歳線 青野小学校付近)

## もくじ

会長あいさつ	…P1
自主防災会の組織図・風水害に備える	…P2
宮川区ハザードマップ	…P3～4
神前区ハザードマップ	…P5～6
猪倉区ハザードマップ	…P7～8
湯の花平ハザードマップ	…P9～10
昭和28年及び昭和35年の水害	…P11～12
安全点検マップ	…P13～14
非常持出しチェック・避難時の服装チェック	…P15

宮前町自治会  
宮前町自主防災会



# あいさつ 「災害は忘れた頃にやってくる」

近年、地球温暖化の影響により、異常気象、集中豪雨が各地で発生し、これまでにない規模の災害が発生しています。

私達、宮前町も過去に災害被害の歴史を持っています。

昭和28年9月28日の台風13号では、宮川地域への集中豪雨により、宮川の神田川が溢れ、橋の決壊、家屋浸水や流出等の被害が発生しました。また、育親中学校(旧)校舎内への土砂崩れにより死亡者も発生しています。

昭和35年8月30日未明に発生した台風16号の集中豪雨においては、神前地域は府道宮前千歳線の鳴滝区域と小学校・宮前橋の間等が決壊し陸の孤島となり、土砂崩れによる死者・重軽傷者、家屋流出等を出しました。猪倉地域でも多くの床上・床下浸水や家屋損傷等が発生し、普段何でもない小川が、この時には洪水で渡れない状況となったようです。

当時に比べると道路や橋も頑丈に整備され、池も改修されていますが、同じことが二度と起こらないという保障はどこにもありません。

過去の歴史に学び、どうすれば一番安全なのか、この「宮前町防災ハザードマップ」を、もしもに備えた材料のひとつとして活用していただければ幸いです。

平成7年に発生した阪神・淡路大震災は記憶に新しいところですが、この度、東北・関東地域において巨大地震が発生し、大変な状況になっています。もし、私たちの地域で地震が起こったときの対策として、どこが危険な箇所か、家庭での備蓄は出来ているか、家具が転倒して避難の妨げにならないかなど、もう一度身の回りをしっかりと見直しましょう。

いつまでも「災害のない故郷宮前町」であれと念じ、巻頭の言葉とします。

平成23年3月末日

宮前町自治会 会長  
宮前町自主防災会 会長 森 良之



# 自主防災会の組織編成と任務

自主防災会	① 火災等の予防・初期消火 ② 防災意識の普及啓発 ③ 防災資機材の整備 ④ 防災訓練の実施	●自主防災会全般の計画策定と推進 ●各区自主防災部との連絡
会長 副会長		
各区 自主防災部	各区で部長、副部長を選出し、情報班・初期消火班・救出救護班・避難誘導班・給食給水班等に役割分担し、機敏な応急活動を行う。	
部長 副部長 役員	◆情報班・・・災害情報の収集と関係先等への通報連絡、広報活動 ◆初期消火班・・・出火等の災害発生防止、初期消火等の防御活動 ◆救出救護班・・・負傷者等の救出・救護活動 ◆避難誘導班・・・人員の把握と避難誘導活動	



# 風水害に備える

### 土砂災害の前兆現象

土石流	山鳴りがする	川の水が濁る 流木が混ざる	雨が降り続けているのに、川の水位が下がる
地すべり	井戸や沢の水が濁る	地面にひび割れができる	がけや斜面から水がふき出す
がけ崩れ	がけに割れ目が入る	がけから水が湧き出る	がけから小石がパラパラと落ちてくる

### 避難時の服装 よしこさんとだめおくん

○服装

よしこさん (よい例)      だめおくん (わるい例)

ヘルメットをつけ  
背負いリュック  
上下に分かれた合羽  
かまどきの靴(履いて脱げない)

避難用の棒  
など長くて  
軽い杖(棒)  
(深みにはまらない)  
手袋  
上下一体はまとわり  
ついて行動しにくい  
荷物で手が使えない  
長靴は水が入ると  
重くて動きづらい

■大雨のときは、田の水を見に行かない(生命第一、死者多し)

○早い目に避難する(高齢者等一人ぐらしの人への掛け)  
○安全なコースをとる(がけ崩れ、濁水、溝など注意)



# 雨の強さと降り方

1時間雨量(mm)	10以上~20未満	20以上~30未満	30以上~50未満	50以上~80未満	80以上
予報用語	やや強い雨	強い雨	激しい雨	非常に激しい雨	猛烈な雨
人の受けるイメージ	ザーザーと降り、話し声が聞き取りにくくなる	土砂降りの雨。傘をさしていても濡れてしまうほどの雨	バケツの水をひっくり返したような激しい雨	滝のように降るほどの激しい雨	息苦しくなるような圧迫感がある
災害発生状況	この程度の雨でも長く続くときは要注意	側溝や下水、小さな川があふれ、小規模のがけ崩れが始まる	山崩れ・がけ崩れが起きやすくなり、危険地帯では避難の準備が必要	マンホールから水が噴出、土石流が起こりやすく、多くの災害が発生する	雨による大規模な災害の発生するおそれが高く、厳重な警戒が必要